

平成 26 年度国有林モニター会議（現地見学）の開催

平成 26 年 10 月 8 日、南信森林管理署内東俣国有林外（南信森林管理署管内）において、国有林モニター会議（現地見学）が開催されました。

現地見学には、全 35 名の国有林モニターさんのうち管内一円からお集まりいただいた 20 名の皆様と、当局から総務企画部長、南信森林管理署長等が出席しました。

【当日の概要】



現地見学は、南信森林管理署管内東俣国有林（1126 林班）において中部森林管理局のニホンジカ被害対策の取組について説明後、松嶋森林技術指導官より南信森林管理署管内のシカ被害状況、対策、成果、職員による捕獲、平成 26 年度中央アルプス地域での新たな取組、「笠松式ワナ」の実演及び「囲いワナ」によるニホンジカ捕獲調査事業の概要等について説明を受けました。

（シカ被害対策説明）

次に、「木の文化を支える森づくり」制度に基づき南信森林管理署と「御柱の森づくり協議会」との間で協定を結んでいる「御柱の森」（1137 林班）において、平成 28 年諏訪大社御柱祭の御柱候補木の見学と南信森林管理署長より協議会の取組内容、候補木選定の経過等の説明がありました。

その後、御柱祭の「木落とし坂」、諏訪大社春宮社殿の四隅に立てた「御柱」の見学を行いました。

今回の現地見学会では、国有林モニターの皆様から「シカ対策が如何に大変なのか分かりました」「シカ対策は駆除が大切」「シカ肉の「ジビエ」料理への活用を図ることが必要」、「御柱は親から子、子から孫に伝わる伝統行事であり継続が必要」といった感想が出されました。

中部森林管理局では、今回の国有林モニター会議（現地見学）でいただいた貴重なご意見を、これからの国有林野の管理経営に活かして参りたいと考えています。



（御柱候補木見学）



（木落とし坂見学）